



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 丸岡 靖史
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151 (代表)

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

さいきんのはなし

歯周病科 准教授 須田 玲子

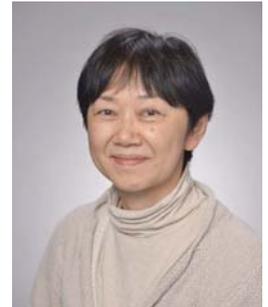
「腸は第2の脳」である、なんて話を耳にしたこと、ありませんか？実は、脳から分泌される「幸せを感じるセロトニン」や「やる気を起こさせるドーパミン」は、腸内で腸内細菌の作用によって作られるそうです。また、腸は消化を助ける、ビタミンBやCを合成するなどの働きの外、免疫にも貢献しています。この免疫システムは腸内細菌の作用により高められ、病原菌やガン細胞の排除に貢献しています。

細菌というと人体に悪いとのイメージを抱きがちですが、ヒトには腸内細菌をはじめとして皮膚や口などに常在細菌叢(マイクロバイオーーム)が存在し、ヒトが作ることができない栄養素を供給したり、病原菌を排除するなどの役割を担っています。さらに最近では、マイクロバイオーームはより広範に生理的機能をコントロールし、ヒトの健康のみならず、心や精神の状態にも影響を与えているらしいと考えられています。元気で活動するためにも、マイクロバイオーームはヒトにとってなくてはならない存在のようです。

このマイクロバイオーームのバランスが崩れることをディスバイオーシス(腸内毒素症)といい、これによって様々な疾患が引き起こされると言われるようになってきました。よく腸内細菌のバランスが崩れて悪玉菌が増えると身体の不調が起こると言われますね。実は、歯周病もその一つです。

歯周病は口腔内常在菌のバランスが崩れ、歯周病をひきおこす細菌群が増えることによって歯肉や歯を支える組織に炎症が起こり、顎の骨(歯槽骨)が溶けていく慢性炎症性疾患です。近年、

この慢性炎症によって産生された起炎物質(炎症性サイトカイン)が他の臓器に波及、あるいは原因菌やその毒素が血流にのって臓器に運ばれることで糖尿病をはじめとする様々な疾患を進行させることがわかってきました。さらに、動物実験では、このような歯周病原性細菌の一つが腸内細菌叢にも影響を与えるという結果が出て、口腔内常在菌もお口の中の疾患だけでなく、腸管を介して全身の健康に関与している可能性が出てきました。



そう、健康維持には“健康なマイクロバイオーーム”が必要というわけです。すでに、ある種の疾患の治療に健康な人の腸内細菌叢の移植が行われ、良い成績を収めているそうです。“健康なマイクロバイオーーム”を育てるためには、十分な食物繊維、ヨーグルトなど発酵食品をとるなど、バランスの良い食生活が大切と言われています。もちろん、お口の健康も大事。虫歯や歯周病があればバランスの良い食事もできません。また、日々の歯ブラシと歯間清掃用具(フロスや歯間ブラシ)によるブラッシング、定期検診でのクリーニングは虫歯や歯周病の予防だけでなく、全身の健康にとっても欠かせないものです。

健康維持に必要なマイクロバイオーーム、今後の研究成果が期待されています。



歯周病はお口の中の細菌が原因で、歯肉の腫れや歯周ポケットを形成して歯を支えている骨(歯槽骨)を失い、そのまま放っておくと歯を失う危険性が高まります。一度失った歯槽骨は従来の歯周病治療では回復するのが容易なことではありませんでした。しかし、近年の科学技術の進歩により、歯周組織再生が可能となってきました。そこで今回は歯周組織再生治療についてご紹介いたします。

保険適用となった新規の歯周組織再生治療剤

歯周組織は歯肉、歯槽骨、歯根膜、セメント質から構成されており、歯周病になると歯周ポケットを形成し、歯周組織が破壊されます(図1)。歯周ポケットが深い場合は、歯周外科手術が必要となり、歯肉を切開・剥離する従来の手術法(フラップ手術)では、深い歯周ポケットを浅くすることはできませんが、破壊された歯周組織を取り戻すことはできませんでした。しかし、1980年代後半から特殊な生体材料を用いる組織再生誘導法(GTR法)や薬剤を用いるバイオ・リジェネレーション法(エムドゲイン®:保険診療適応外)を用いることで破壊された歯周組織を再生することが可能となり、国内外で使用されるようになりました。一方、本邦において、2016年12月に歯周組織再生剤「リグロス® 歯科用液キット」が販売され、健康保険診療で使えることになりました。この「リグロス®」は遺伝子組み換え型ヒトFGF-2(線維芽細胞増殖因子)を成分とする製品で、フラップ手術時に歯槽骨欠損部に塗布することで歯周組織の再生が可能となりました(写真1)。また本剤は、エムドゲイン®との比較試験(第Ⅲ相臨床試験)においても歯槽骨の再生量が優れていることも示されており、当科においても年間約90例の実績があります。当科での歯周組織再生治療は、前述した GTR法やエムドゲイン®を用いたバイオ・リジェネレーション法も行ってい

ますので、患者さんの治療の選択肢はさらに広がりました。但し、すべての患者さんに行えるものではございませんので、詳しくは担当歯科医師または当科在籍の日本歯周病学会認定歯周病専門医、認定医にご相談ください。

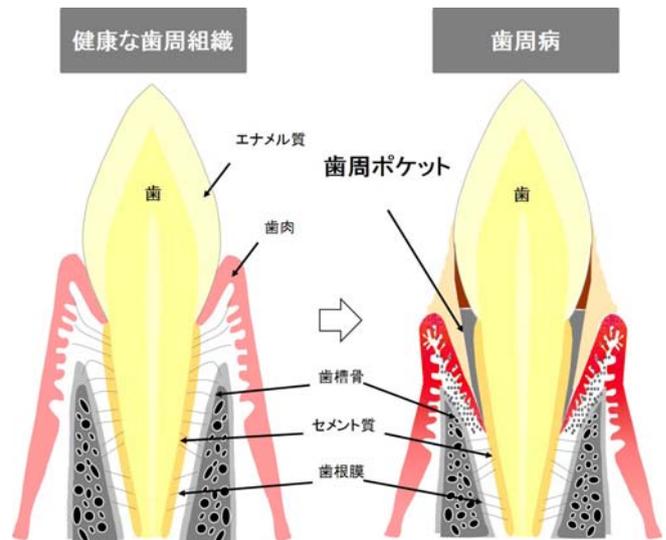


図1

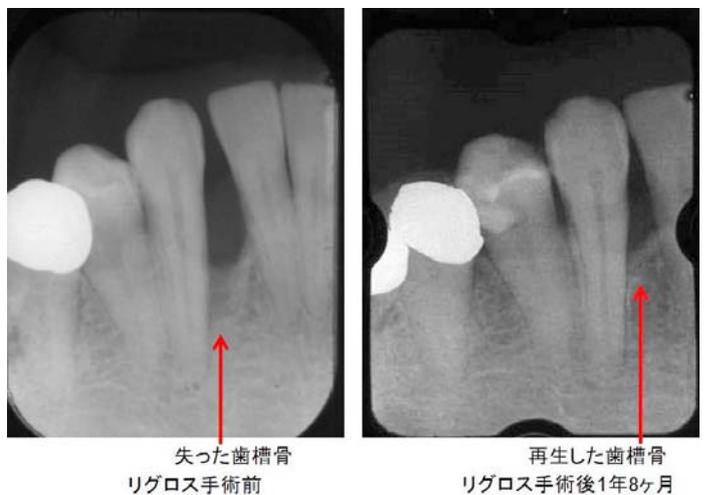


写真1



歯周病科医局員

歯内治療科は4階西診療室にあり、歯の根(神経)の治療を専門としています。進行したむし歯によって歯の神経や歯の根の先に炎症が生じた歯に対して、“歯の神経が入っていたところ≡根管”の中から歯の神経、細菌または汚れなどを除去して、根管の中をきれいにする根管治療を行います。

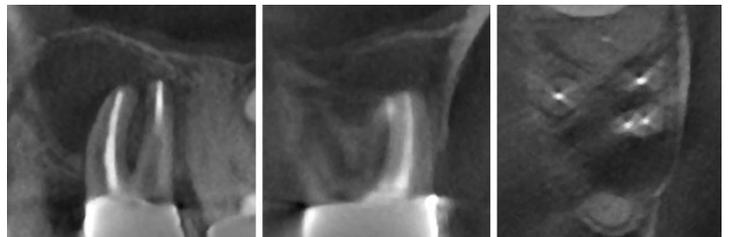
しかし、根の中の処置では除去しきれない部分に細菌感染が生じることにより、根の先に膿をもっている場合には、根管治療を行っても治癒しないことがあります。また、かぶせものの状況によっては通常の根管治療を行うことが困難な場合もあります。その場合には、歯根端切除術とよばれる外科的歯内治療により、外科的に根の先の感染部位を取り除く処置を行うことで治癒が望める場合があります。

歯根端切除術を計画した場合には、まず歯科用CTを撮り、3次元的に歯の根やその周囲の骨・解剖学的構造物の状態を精査し、歯根端切除術の適応となるかどうかを診断します。歯の種類や歯根と周囲の構造との位置関係、膿の大きさや位置などによって、実施が困難な場合があります。歯根端切除術による改善が望めると判断した場合には、患者さんのご同意のもと、予約をお取りして手術となります。

手術は、通常は局所麻酔下で行います。歯肉を切開したのちに、膿や感染している根の先を取り除き、さらに根管内を根の先の方向から超音波装置を使用して清掃したのちに、根管内を歯科用セメントによって封鎖し、再感染を防止します。切開した歯肉を縫合し、エックス線写真で処置の状況を確認して終了となります。処置はすべて歯科用実体顕微鏡(マイクロスコープ)を用いて行います。4～7日後に抜糸を行い、その後は定期的にエックス線写真を撮影し、治癒経過をみていきます。順調に回復すれば、数カ月で歯根の周りに新しい骨が形成されていきます。また、歯肉を切開し

た痕も、多くの場合、ほとんど気にならない状態にまで回復します。ただ、手術中に歯の根にひび(歯根破折)が見つかった場合には、手術で治すことができないため、残念ながら抜歯の適応となってしまいます。

歯科用CTによる3次元的な診断の上で、マイクロスコープを用いて手術を行うことにより、微細な構造を確認しながら、より精細で外科的侵襲の少ない処置ができるようになり、従来の方法と比較して治癒率も格段に向上しています。



歯科用CTにより3方向から歯根および周囲の状態を精査する



マイクロスコープを用いた歯根端切除術



根の先の切断面をマイクロミラーで確認

着任のご挨拶

インプラント歯科 科長 宗像 源博

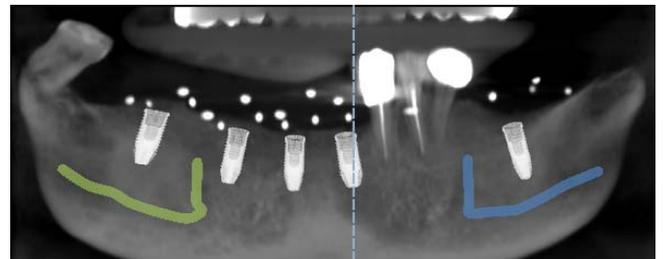


6月1日よりインプラント歯科診療科長に着任しました宗像源博です。インプラントと聞くと、『手術が怖い』『腫れるの?』『痛い?』『入院が必要なの?』など顎の骨の中に埋め込む大変な手術だと思

込む患者さんが多いのですが、もともと生えていたご自身の歯を抜いた場所に代わりに入れる人工の根っこであると考えてほしいです。たしかに昔は長くて太いインプラントを入院して長い時間をかけて入れていた時代もありましたが、最近ではCTの普及やシミュレーションソフト、ナビゲーション手術が導入されて、非常に短い時間で安全かつ低侵襲(腫れない、痛くない)で手術をおこなうことが可能になっております。

また、インプラント手術においては滅菌環境が非常に重要になります。昭和大学での手術は全ての症例で滅菌環境の整った手術室でおこなっており、麻酔科と連携して術中に眠った状態でインプラントを入れる『無痛日帰り手術』もおこなっておりますので、気軽にお声掛けください。

さらには、他の病院で入れたインプラントのメンテナンスや不具合、インプラントの相談のみでも、随時受け付けておりますので、お気軽にご相談ください。



公開講座開催のお知らせ

毎年開催されております、昭和大学歯科病院の公開講座の日程が決定致しました。

平成30年10月13日(土)13:00~15:00、大田区の後援を得ての開催となります。今年度は小児歯科、矯正歯科、歯科衛生室の三本立てです。参加費無料で、事前申込不要のため、どなたでもご参加いただけます。

参加者には歯科用品のプレゼントもご用意しておりますので、ぜひご参加ください。

※受講後、氏名入りの受講証明書をご希望される方は事前にお申し込み頂いておりますので、詳細は院内掲示ポスター・歯科病院ホームページをご覧ください。

<http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/>

編集後記

今年は早くも梅雨が明け、暑い日が続いています。夏バテで免疫力が低下すると、歯ぐきが腫れて痛みを伴うことがあります。夏本番を迎える前にぜひ歯科病院へ、お口の中のチェックにいらしてください。(K.M)



主催：昭和大学・昭和大学歯科病院 後援：大田区

第21回 **昭和大学公開講座**
暮らしと健康 ~お口の健康~

2018年10月13日(土)
13:00~15:00
場所：昭和大学歯科病院6階臨床講堂

1 小児歯科 御存知ですか? 乳歯・永久歯が生えないこともあります 講師：小児歯科・教授 島田 幸恵	2 矯正歯科 歯並びと歯の健康 - 矯正歯科治療中のう蝕予防管理も含めて - 講師：矯正歯科・助教 芳賀 秀郷	3 歯科衛生 お口の健康と全身の健康の関わり 講師：歯科衛生士 兼田 麻矢
--	---	--

参加費無料！申込不要。受講者にはもちろん歯科用品をプレゼント！

昭和大学歯科病院 大田区北千束2-1-1
<http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>
※氏名入りの受講証を発行ご希望の方は事前申込が必要です。
※第1回 講演資料は電子メールで、お申し込みください。

90th Anniversary
1928-2018